

# 第3回滝川市立地適正化計画策定委員会の開催結果について（要旨）

## 会議次第

1. 開会
2. 委員長あいさつ
3. 議事
  - (1) 滝川市立地適正化計画策定委員会の経過等について
  - (2) WEBアンケート調査結果について
  - (3) 素案について意見交換
4. その他
5. 閉会

## 策定委員会開催日・出席者数

令和4年9月20日（火） 13:00～15:00

参加者数 14名（委員6名、事務局等8名）



## 質疑応答

- 計画書に記載されている、誘導施策は庁内の様々な部署の施策も含まれているのか。  
→ 庁内会議で検討したうえで、関係課の施策についても位置付けている。

## 主なご意見

- 居住誘導を考えるうえで学校は優先順位が高いと思うので、計画書の中に表現を入れたほうが良いのではないかと。
- 公共交通ネットワークの目標値が目標年には112千人となっているが、この目標値で維持できるものなのか。目標値の妥当性について再度整理が必要ではないかと。  
また、様々な交通モードを選択できるようになっているため、適切な交通モードを選択できると良いと思う。
- 強制的に誘導ができないのであれば、ポジティブに誘導できるよう、プラスになる部分（施策）が非常に重要だと思う。
- 駅周辺が都市機能誘導区域になっているが、商業施設ではなく、体験できる広場などが良いと思う。  
他市町村の新しいまちづくりを見ると、民間と公共施設が近いところが多い。そういったまちづくりも考える必要があるのではないかと。
- 将来都市構造の「都市拠点」というと、これまでとあまり変わらない気がする。このエリアは広場や公園など、パブリックな投資が行われ、スモールビジネスが集まってくるというイメージが湧くような表現ができないかと。  
同様に「生活利便拠点」という言い方よりも、雇用の中心、経済の中心、投資を呼び込むというような表現ができないかと。  
また、「交流ゾーン」についても、交流というよりは観光についての表現の方が分かりやすいのではないかと。
- 立地適正化計画を策定することが、何か変わっていくための起点になるということが伝わると良いと思う。